

## 1. 渡航先・期間

フランス・パリ、モロッコ・カサブランカ

2017 年 9 月 3 日~28 日

## 2. 背景

フランスでは第二次世界大戦以降深刻な住宅不足に直面し、国家主導の住宅政策のもと大都市郊外部において高層大型団地が複数建設されるようになった。しかし 1960 年代に入ると団地の老朽化に加え、旧植民地のマグレブ地方からの移民が多く集住するといった問題が表面化されるようになった。現在ではこのような地域における治安悪化の背景を受け、ハード・ソフト両面の改善を目指した再生事業が行われている。

## 3. 目的

フランスの集合住宅計画の初期を担った建築家キャンディリスの寄稿文や図面等の文献及び建設当初の研究記事等の資料を収集する。また彼の建築作品を実地踏査することにより、構造的特徴やこれまでの住棟改修の状況を把握する。このようなデータを基に、修士論文では 1950~60 年代の社会住宅団地計画の特徴や理念、課題点を明らかにしていく。

## 4. 実施内容

まず文献調査ではフランス国立図書館、ポンピドゥーセンター図書館、シテ建築図書館の 3 館を訪問した。1950 年代~1960 年代の *L'Architecture d'aujourd'hui* 等の建築雑誌を探し、その中からキャンディリスの設計した建築物に関する理念等が書かれている記事や図面、建設当初の写真を収集した。

実地踏査ではオルネー＝スゥ＝ポワ、ポビニー、トゥールーズ、バニョール＝シュル＝セーズ、そしてカサブランカの 5 箇所を訪れた。それぞれの建築物の構造的特徴を把握するだけでなく、当時から現在までの改修によってどのように住棟が変化したかについても確認した。

## 5. 成果

第一に文献調査によって、1950~60 年代のキャンディリス本人の寄稿文及び図面等の一次資料と、彼の建築作品に関する研究記事を 16 点入手することができた(表 1)。この資料をもとに彼の建築の構造的な特徴の系譜や一貫した建築理念を今後考察していく。また彼の寄稿文から、彼の CIAM や ATBAT に所属していた頃の経験、カサブランカやアルジェに滞在して得た見聞などが、のちのフランスでの集合住宅の建設計画にどのような影響を及ぼしていたかを考察することもできると考えられる。

表 1 本プロジェクトで入手した資料の一覧(一部抜粋)

書名	巻号、年号、ページ、タイトル等
L'Architecture d'aujourd'hui(以下 A.A.)	No.49, octobre 1953, p.9-11(« Contribution à la Chart de l'Habitat, pour le congrès CIAM à Aix-en-Provence», « L'habitation individuelle minimum»)
A.A.	No.57, décembre 1954, p.14, 54-55, « Habitat collectif musulman à Casablanca»
A.A.	No.66, juillet 1956, p.30-31 « Groupe d'H.L.M. à Bobigny et Argenteuil »
A.A.	No.91-92, 1960, p.124-127« Recherches pour une structure de l'habitat»
Architecture formes fonctions(以下 A.F.F.)	No.10, 1963-1964, p. 110-119 .« Problèmes d'aujourd'hui, unité, nombre, plus grand nombre»
A.F.F.	No.13, 1967 .« Formes et fonctions»
A.F.F.	No.15, 1969 « À la recherche d'un sens nouveau au mot "architecte"», , p. 18-21
A.F.F.	No.16, 1971, p_ 71-76. « Le Corbusier et l'urbanisme», et « Ideas »

第二にフランス国内 4 箇所、カサブルンカー箇所でキャンディリスの建築作品を実地踏査し、窓や階段、ピロティなどの外観的特徴がどのように変化していったかを確認することができた。彼は幾何科学的かつ非単調的な構造を尊重し、それは作品を経ることによってより複雑化していった。またカサブルンカでは彼の作品は住民の手によって増築されていたり(図 1)、フランスではリノベーションの際も建設当初の様式を踏襲していたり(図 2)と、建設後は建築物によってそれぞれ異なる改修がなされていったことが分かった。



図 1 住民によって新たに壁が作られた住棟



図 2 低層部が改修された住棟